

委託試験結果概評(抜粋)

■ごぼう ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2016	ごぼう (柳川理想) 播種:5/10	キタネグサレセンチュウ <被害程度指数>	北海道十勝	露 地	甚	20kg/10a	播満土壌 混和	1	5/9(は種前) <10/14(処理 158日後)>	対照B剤 20kg/10a 播満土壌混和	B	B	B	—
2016	ごぼう (柳川理想) 播種:6/3	キタネグサレセンチュウ <線虫密度、被害度の対無処理比>	青森野	露 地	少	20kg/10a	播満土壌 混和	1	6/3(は種前) <10/18>	対照A剤 20kg/10a 播種満土壌混和	A	C	C	—
2018	ごぼう (柳川理想) 播種:5/16	ネグサレセンチュウ類 (キタネグサレセンチュウ) <根腐れ程度指数、商品根率>	北海道十勝	露 地	甚	20kg/10a	播満土壌 混和	1	5/14 (は種前) <処理154日後>	対照B剤 20kg/10a 播満土壌混和	A	A	A	—

■やまのいも ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2017	やまのいも (ふさおうぎ) 播付:5/2	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <被害程度>	千葉	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/2(播付前) <播付150日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2017	やまのいも (在来種) 播付:2016/4/20	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	鳥取園	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/18(播付前) <播付227日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2017	やまのいも (銀杏手) 播付:4/19	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	日植防高知	露 地	中 (接種)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/19(播付前) <播付104日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	C	B	B	—
2018	やまのいも (在来種) 播付:2017/4/20	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	鳥取園	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/13(播付前) <処理228日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—

■きく ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2016	きく (銀鈴、子羊、もみじ) 定植:6/1	センチュウ類 (キタネグサレセンチュウ) <根内線虫数>	日植防茨城	露 地	少→甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/1(定植前) <定植68日後>	対照A剤 20kg/10a 定植前全面処理土壌混和	A	A	A	—
2017	きく (白鳥) 定植:6/12	センチュウ類 (キタネグサレセンチュウ) <根部被害指数の対無処理比>	日植防茨城	露 地	少→多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/12 (定植前) <処理90日後>	対照A剤 20kg/10a 定植前全面処理土壌混和	A	A	A	—
2017	きく (不明) 定植:6/8	ネグサレセンチュウ類 (キタネグサレセンチュウ) <根内虫数(A,L)>	日植防宮崎	露 地	少 (接種)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/8(定植前) <処理166日後>	対照A剤 25kg/10a 定植前全面処理土壌混和	A	A	A	—

■きく ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2017	きく (雲海、幸) 定植:5/18	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	東京	施設	多 (接種)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/18 (定植前) <処理61日後>	対照B剤 20kg/10a 定植前全面土壌混和	B	B	B	—
2018	きく (雲海、幸) 定植:8/28	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	東京	施設	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/28 (定植前) <処理70日後>	対照B剤 20kg/10a 定植前全面土壌混和	A	A	A	—
2018	きく (思い出(白)) 定植:6/22	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	日植防茨城	施設	少→中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/22 (定植前) <処理107日後>	対照B剤 20kg/10a 定植前全面土壌混和	B	B	B	—



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078
(9:00～12:00、13:00～17:00 土・日・祝日を除く)

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

技術資料

センチュウ防除に
これゝいいね、

ビーラム®
粒 剤

殺線虫剤



ビーラム®の
詳しい情報はこちら！



はじめに

ビーラム®粒剤は、有効成分フルオピラムを含有した新規の殺線虫剤です。

本剤はBCI-133粒剤の試験コード名で一般社団法人日本植物防疫協会を通じた公的試験が実施され、畑作・園芸作物の主要なセンチュウ類に対して優れた防除効果を示すことが確認され、平成29年8月9日付で新規農薬登録を取得いたしました。

この技術資料は今までに得られた知見を基にビーラム®粒剤の特長、作用性、試験成績などを取りまとめたもので、今後の試験等にご活用いただければ幸いです。

CONTENTS

04

有効成分 / 安全性

05

適用害虫・使用方法 / 使用上のポイント

06

作用機構 / 作用点

07

線虫スペクトラム / 効果安定

08

防除効果

10

委託試験結果概評

新規性

●従来の殺線虫剤とは異なる、新規の作用機構を有する殺線虫剤です。

優れた効果

●ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、シストセンチュウ、イモグサレセンチュウ等の幅広いセンチュウ類に対し優れた防除効果を発揮し、収量や品質の向上が期待できます。

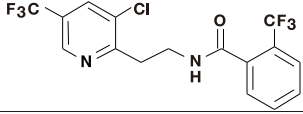
高い安全性

●人畜への影響が低く、作業安全性の高い薬剤です。土壌生物や水産動植物、その他環境生物への影響の低い薬剤です。

使いやすさ

●臭気が少なく、扱いやすい粒剤です。被覆やガス抜き等の作業が不要で散布後すぐに定植、播種が可能です。

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

有効成分名	フルオピラム
化学名	N-{2-[3-クロロ-5-(トリフルオロメチル)-2-ピリジル]エチル}- α,α,α -トリフルオロ-o-トルアミド
構造式	
分子量	396.72
水溶解度(20℃)	16mg/ℓ (pH6.7)
蒸気圧	1.2x10 ⁻⁶ Pa (20℃)
オクタノール/水分配係数 (log Pow)	3.3 (24℃)

農 薬 名：ビーラム®粒剤
有効成分量：フルオピラム 0.50%
登 録 番 号：農林水産省登録 第23961号
試 験 名：BCI-133粒剤
種 類 名：フルオピラム粒剤
性 状：淡褐色細粒

安全性

■人畜毒性(製剤):普通物 (毒劇物に該当しないものを指している通称)

急性経口毒性	(ラット♀) LD ₅₀ > 2,000mg/kg
急性経皮毒性	(ラット♂♀) LD ₅₀ > 2,000mg/kg
皮膚刺激性	(ウサギ) 軽度刺激性
眼刺激性	(ウサギ) 中等度刺激性
皮膚感作性	(モルモット) 感作性なし

■その他生物への影響

ミツバチ等の有用生物や、土壌生物を含む環境生物への影響の少ない薬剤です。

ミツバチ	影響なし※1	急性毒性(経口,接触) LD ₅₀ >100μg a.i./bee
捕食性ダニ	影響なし	LR ₅₀ >2L product/ha (<i>Typhlodromus pyri</i>)※2
寄生蜂	影響なし	LR ₅₀ >2L product/ha (<i>Aphidius rhopalosiphii</i>)※2
ハナアブ	影響なし	IOBC class1 (<i>Episyrphus balteatus</i>)※2
捕食性カメムシ	影響なし	IOBC class1 (<i>Anthrenus nemoralis</i>)※2
コレマンアブラバチ	影響なし	IOBC class1 (<i>Aphidius colemani</i>)※2
ショクガタマバエ	影響なし〜僅か	IOBC class1-2 (<i>Aphidoletes aphidimyza</i>)※2
テントウムシ(蛹,成虫)	影響なし	IOBC class1 (<i>Adalia bipunctata</i>)
ミミズ	影響なし	LC ₅₀ (14日) >1,000mg a.i./kg soil (<i>Eisenia fetida</i>)
土壌微生物相	登録薬量において、以下の点に問題ないことを確認 炭素・窒素の無機化への影響、植物残渣分解への影響、 糸状菌生育(<i>Agrocybe</i> sp., <i>Cladorrhinum</i> sp., <i>Penicillium</i> sp., <i>Phytophthora</i> sp.)への影響	

※1 影響なし:登録薬量での使用において悪影響を及ぼさないと判断される
※2 500SCでの評価、注釈のないものは原薬評価

IOBC: International Organization of Biological Control Classification;
1:死亡率0~25%、2:25~50%、3:50~75%、4:75~100%(野外・半野外試験)
1:死亡率0~30%、2:30~80%、3:80~99%、4:99~100%(室内試験)



ビーラム®
粒 剤

適用害虫および使用方法 (2020年7月現在の登録内容)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルオピラムを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ジャガイモシストセンチュウ ジャガイモシロシストセンチュウ	20kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	1回
やまのいも	ネコブセンチュウ					
かんしょ	ネグサレセンチュウ					
さといも	イモグサレセンチュウ					
にんにく	ネコブセンチュウ		は種前		播溝土壌混和	
にんじん	ネグサレセンチュウ					
だいこん	ネコブセンチュウ		定植前		全面土壌混和	
ごぼう	ネグサレセンチュウ					
きく	ネコブセンチュウ					

使用上の注意事項

- 間引き菜、つまみ菜に使用しないで下さい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意事項

- 誤食などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。

使用上のポイント

全面土壌混和处理の使用方法

散布

植付、は種前に土壌全面に均一に散布して下さい。

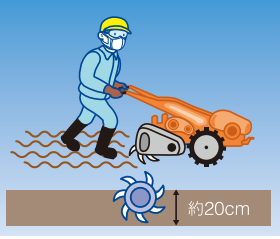


混和

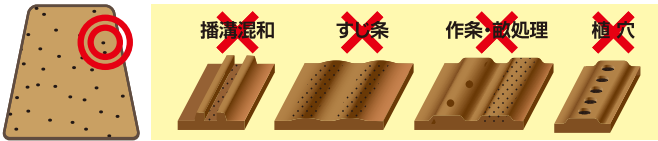
表層から20cm程度の深さまで、ムラがないように、丁寧に土壌と混和して下さい。(土壌中の線虫は地表面から10~20cmの層に多く分布)



処理時の土壌の水分条件は手で握って開くとやや割れ目ができる程度が目安です。



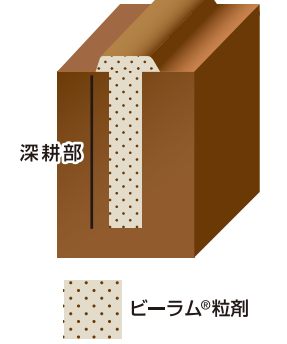
登録の使用方法が全面土壌混和处理の場合は、播溝・植溝混和、すじ条、作条・畝処理、植穴処理等不得使用しないで下さい。使用方法を守って使用して下さい。



長年の連作により線虫密度が高まっている圃場や、前作の残渣の残る圃場等、線虫被害が多いと予想される圃場では他の薬剤(土壌くん蒸剤)との体系処理をお奨めします。

播溝土壌混和处理(ごぼう)の使用方法

薬剤を播溝部分に処理後、トレンチャー等により深耕部へ混和してください。



ビーラム®粒剤

■防除効果を十分に発揮するために、薬剤を土壌中に均一に処理する必要があります。

<優れた効果>

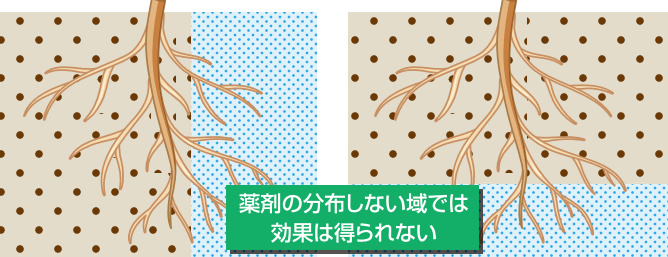
薬剤が根の周りに均一に存在



均一な散布・十分な混和

<効果不足>

薬剤が根の周りに不均一に存在



処理時の薬剤の偏り・不十分な混和

処理後の混和深が浅い

薬剤の分布する域で効果が得られる

薬剤の分布しない域では効果は得られない

ビーラム®粒剤

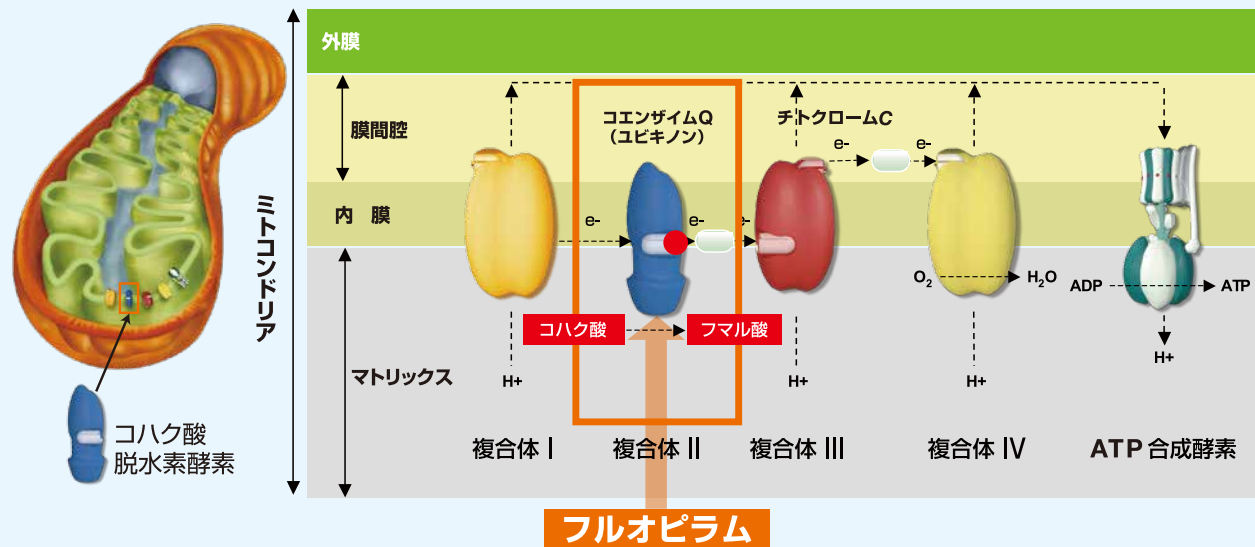
効果の得られない範囲

作用機構

■ビーラム®粒剤(有効成分フルオピラム)は従来の殺線虫剤とは異なる新規の作用機構を有します。

登録年	有効成分名	作用機構	分 類	IRAC線虫剤分類
1981年	ホスチアゼート	アセチルコリン エステラーゼ阻害	有機リン系	N-1B
1992年	オキサミル		カーバメート系	N-1A
2000年	カズサホス		有機リン系	N-1B
2010年	イミシアホス			
2017年	フルオピラム	コハク酸脱水素 酵素阻害	ピリジニルエチル ベンズアミド系	N-3

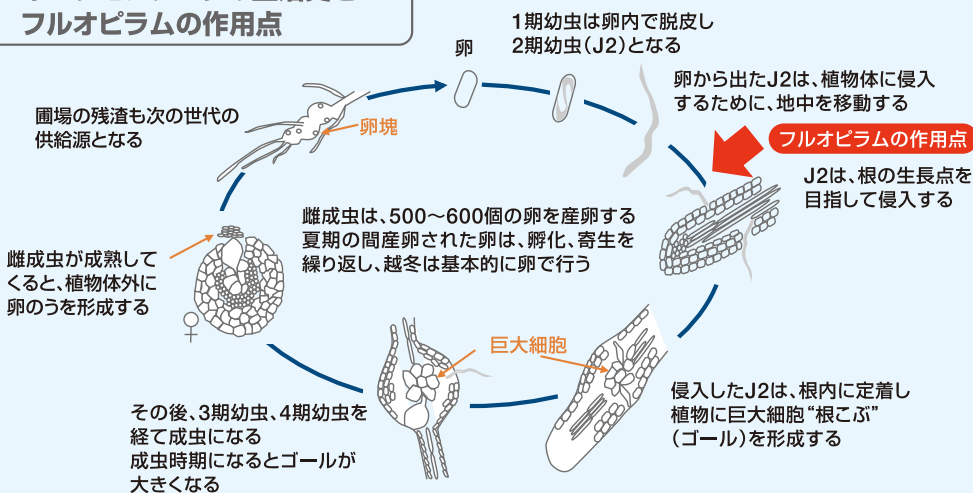
■ミトコンドリアにおける電子伝達系の複合体IIのコハク酸脱水素酵素を阻害し、センチュウのエネルギー(ATP、アデノシン3リン酸)生産を阻害します。



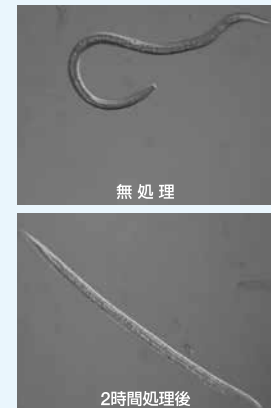
作用点

■土壌中のセンチュウに直接的に作用し、土壌中の移動と根への侵入を阻害します。
ビーラム®粒剤によってエネルギー生産ができないセンチュウは、活動を停止し死に至ります。

ネコブセンチュウの生活史とフルオピラムの作用点



フルオピラム20ppmに2時間
浸漬した後のサツマイモネコブ
センチュウ(2期幼虫)



フルオピラム処理による症状
①運動が阻害され、動きが緩慢になる
②動きがなくなり、まっすぐ伸びた状態となる
③完全な麻痺状態となる

線虫スペクトラム

■幅広いセンチュウに、高い防除効果を示します。

ビーラム®粒剤が有効なセンチュウ

●ネコブセンチュウ

サツマイモネコブセンチュウ
キタネコブセンチュウ等



●シストセンチュウ

ジャガイモシストセンチュウ
ダイズシストセンチュウ等



●ネグサレセンチュウ

キタネグサレセンチュウ
ミナミネグサレセンチュウ等



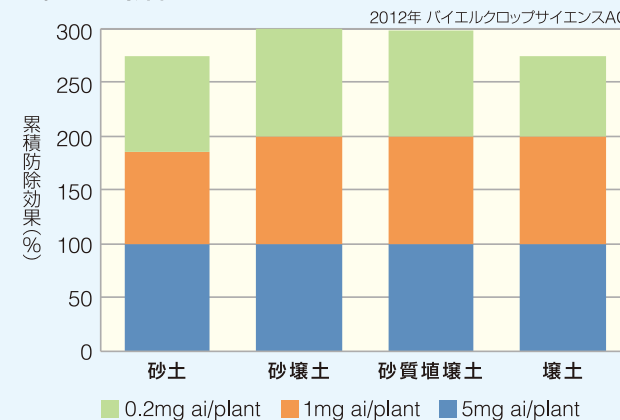
●クキセンチュウ

イモグサレセンチュウ等



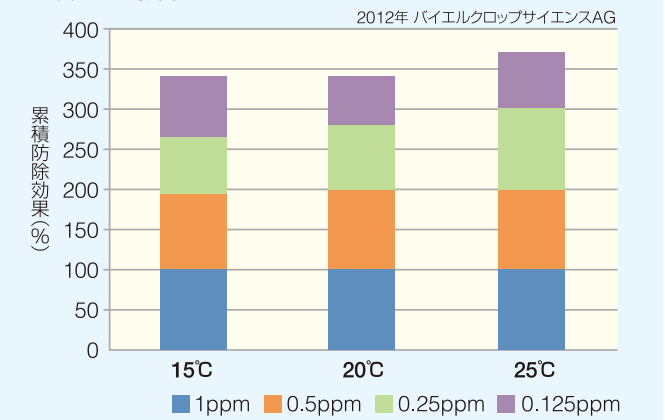
効果安定性

■土性による影響



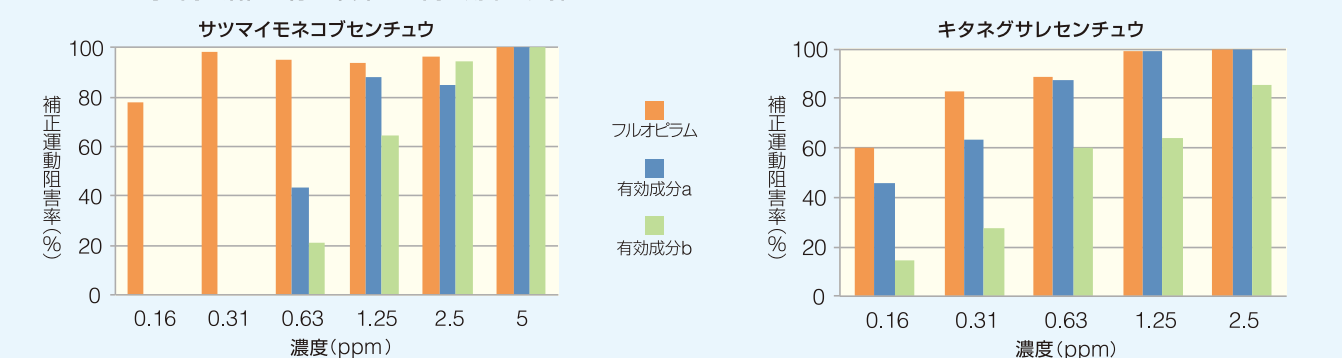
作物: トマト
害虫: サツマイモネコブセンチュウ
方法: ポットにトマトを植付けた5日後、フルオピラム10土壌当り 0.2mg, 1mg, 5mgと
なるように灌注。
その後センチュウを接種し、5週間後に被害度を調査、無処理被害度より防除値を
算出。(10土壌/1株/ポット、2反復)

■温度による影響



作物: レタス
害虫: サツマイモネコブセンチュウ
方法: ウェルプレートに種子を播種した後、センチュウ卵懸濁液を接種、続いて所定濃度に
調製したフルオピラム溶液を2mL/ウェル処理後、恒温条件下で管理。
15°Cは4週間、20°C、25°Cは3週間管理後に被害度を調査、無処理被害度より
防除値を算出。(6ウェル/試験区、30粒/ウェル播種)

■センチュウに対し高い活性を有し、低薬量で高い効果を発揮します。

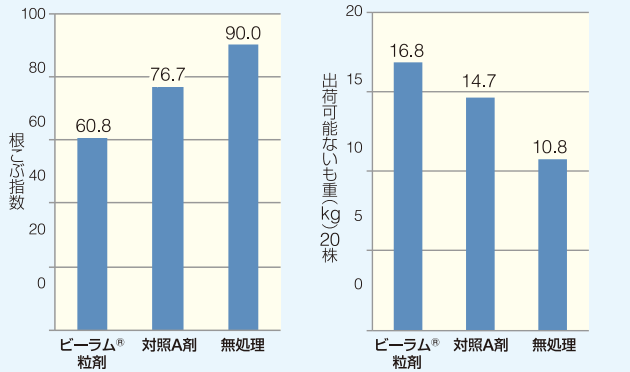


方法: 薬液浸漬法 所定濃度の薬液にセンチュウを浸漬し、25°C48時間静置した後、顕微鏡下で生死別に計数し、補正運動阻害率を算出した
※常用濃度はフルオピラム0.5ppm、有効成分a,bは各1.5ppm相当(地表より20cm深で登録薬量を処理した場合の想定濃度)

防除効果

■かんしょ サツマイモネコブセンチュウ

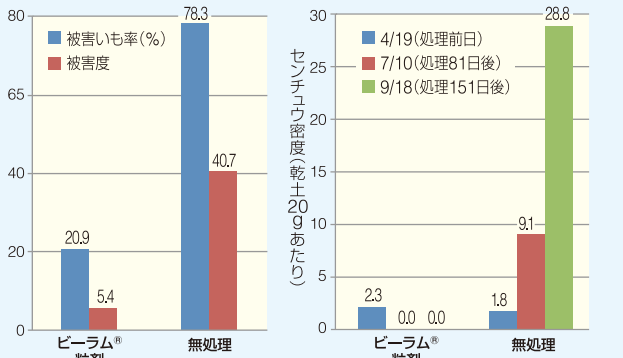
2016年 鹿児島県農業開発総合センター 大隅支場



品 種:コガネセンガン(黒マルチ栽培)
 植 付:5月14日
 発生条件:少発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■かんしょ ミナミネグサレセンチュウ

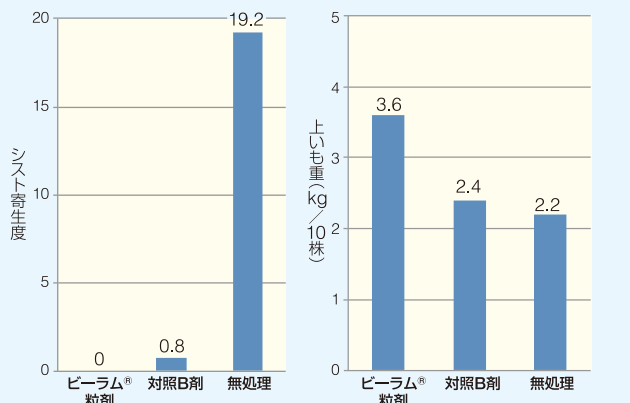
2018年 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場



品 種:コガネセンガン
 植 付:4月20日
 発生条件:多発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■ばれいしょ ジャガイモシストセンチュウ

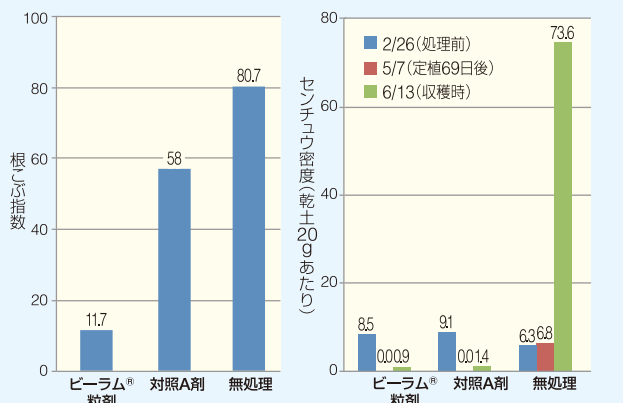
2016年 長崎県農林技術開発センター



品 種:ニシユタカ
 植 付:9月9日
 発生条件:少発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■ばれいしょ サツマイモネコブセンチュウ

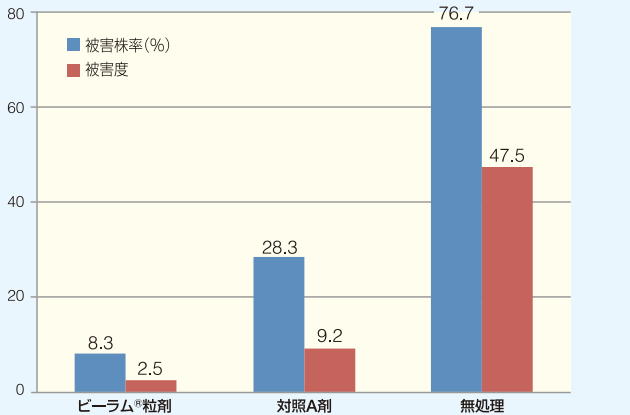
2019年 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場



品 種:ニシユタカ
 植 付:2月27日
 発生条件:少発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■だいこん キタネグサレセンチュウ

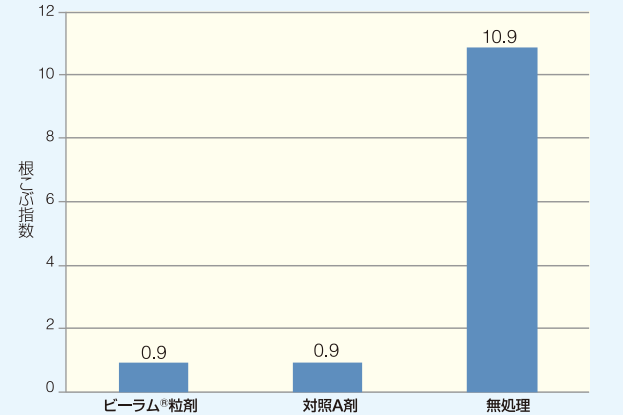
2015年 青森県産業技術センター野菜研究所



品 種:夏つかさ旬
 播 種:7月22日
 発生条件:中発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■だいこん サツマイモネコブセンチュウ

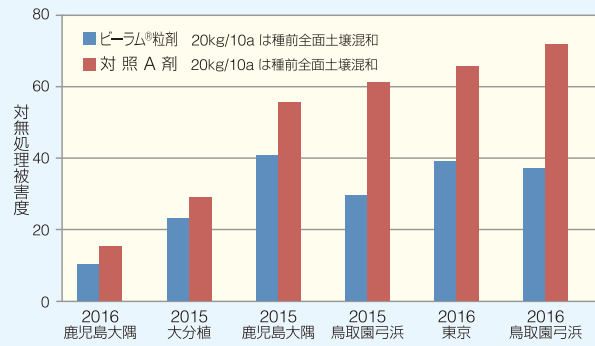
2016年 鹿児島県農業開発総合センター 大隅支場



品 種:夏天下
 播 種:8月23日
 発生条件:少発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

防除効果

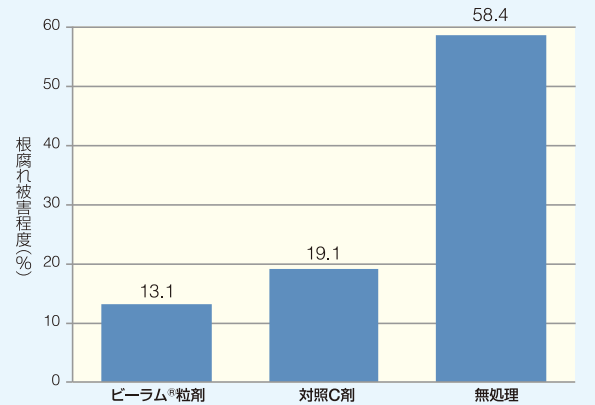
■にんじん サツマイモネコブセンチュウ



年度	実施場所	品種名	発生条件	処理月日	調査時期(処理後日数)
2016	鹿児島大隅	向陽二号	少	8/23	52
2015	大分植	黒田五寸	多	8/22	95
2015	鹿児島大隅	向陽二号	少	8/27	49
2015	鳥取園弓浜	彩誉	中	8/11	36
2016	東京	ベーター312	中	4/13	104
2016	鳥取園弓浜	ベーター312	中	8/2	62

■にんじん キタネグサレセンチュウ

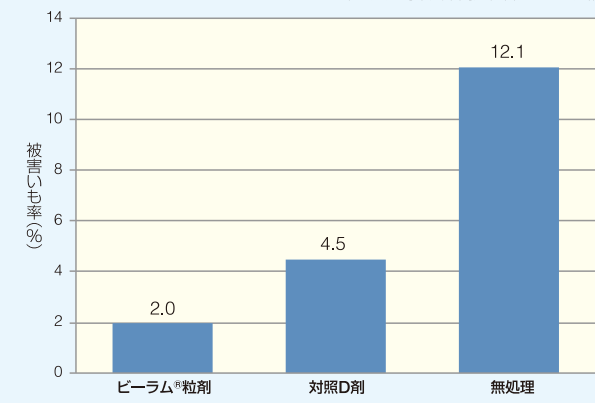
2015年 北海道農業研究センター



品 種:向陽二号
 播 種:6月3日
 発生条件:多発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■さといも ミナミネグサレセンチュウ

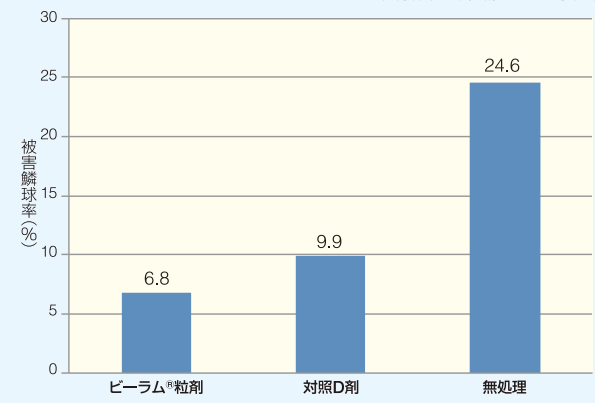
2016年 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場



品 種:大吉
 植 付:3月16日
 発生条件:少発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■にんにく イモグサレセンチュウ

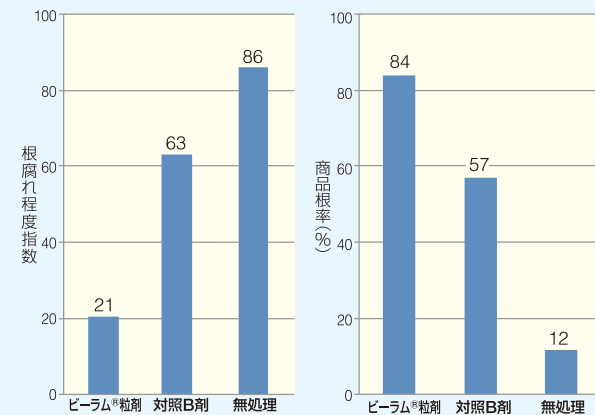
2014年 青森県産業技術センター野菜研究所



品 種:福地ホワイト
 植 付:10月22日
 発生条件:中発生
 処 理 量:20kg(対照剤30kg)/10a
 処理方法:全面土壌混和
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■ごぼう キタネグサレセンチュウ

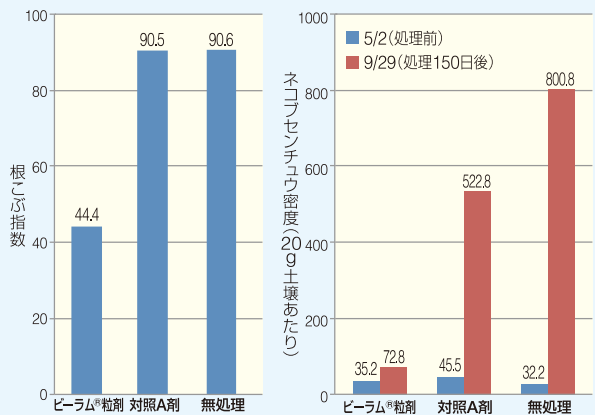
2018年 北海道立総合研究機構十勝農業試験場



品 種:柳川理想
 播 種:5月16日
 発生条件:甚発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

■やまのいも サツマイモネコブセンチュウ

2017年 千葉県農林総合研究センター



品 種:ふさおうぎ
 植 付:5月2日
 発生条件:多発生
 処 理 量:20kg/10a
 調査方法:各区20株について根こぶ被害程度、および出荷可能なも重量(50g以上の塊根でくびれや裂開の甚大な被害のないもの)を調査(3反復)

委託試験結果概評(抜粋)

■かんしょ ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2014	かんしょ (紅あすま) 植付:6/5	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	日植防茨城	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/4(植付前) <植付133日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2014	かんしょ (パイオ士佐紅金時) 植付:5/19	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	日植防高知	露 地	少→中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/19(植付前) <処理72日後>	対照A剤 30kg/10a 全面土壌混和	C	B	B	—
2014	かんしょ (コガネセンガン) 植付:4/24	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <補正密度(L)、根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少→中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/24(植付前) <処理95,137,140日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2014	かんしょ (高系14号) 植付:5/23	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <補正密度(L)、根こぶ指数>	九冲農研	露 地	少→多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/23(植付前) <定植138,139日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2015	かんしょ (高系14号) 植付:5/26	サツマイモネコブセンチュウ <被害指数>	茨城	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/26(植付前) <処理132日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2015	かんしょ (土佐和) 植付:6/2	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	日植防高知	露 地	少→中 (接種)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/2(植付前) <処理65日後>	対照A剤 30kg/10a 全面土壌混和	C	C	C	—
2015	かんしょ (コガネセンガン) 植付:6/2	サツマイモネコブセンチュウ <補正密度(L)、根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/2(植付前) <処理71,118日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	C	C	—

■かんしょ ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2018	かんしょ (宮崎紅(高系14号)) 植付:5/21	ネグサレセンチュウ類 (ミナミネグサレセンチュウ) <被害指数・対無処理比>	宮崎	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/21(植付前) <処理123日後>	—	—	B	B	—
2018	かんしょ (コガネセンガン) 植付:4/20	ネグサレセンチュウ類 (ミナミネグサレセンチュウ) <被害度>	鹿児島大隅	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/20(植付前) <処理151日後>	—	—	A	A	—
2018	かんしょ (コガネセンガン) 植付:5/15	ネグサレセンチュウ類 (ミナミネグサレセンチュウ) <被害指数・補正密度指数>	九冲農研	露 地	中→多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/10(植付前) <線虫密度64,145日後、 被害指数146日後>	—	—	A	A	—

■ばれいしょ ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2018	ばれいしょ (メークイン) 植付:4/2	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	宮崎	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/2(植付前) <処理92日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	C	C	—
2018	ばれいしょ (ニシユタカ) 植付:8/27	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/27(植付前) <処理100日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—
2019	ばれいしょ (ニシユタカ) 植付:2/27	ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2/27(植付前) <処理106日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—

■ばれいしょ ジャガイモシストセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2014	ばれいしょ (男爵薯) 植付:5/13	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生程度、卵密度増加率>	北農研セ	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/13(植付前) <7/29,8/28>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2015	ばれいしょ (ニシユタカ) 植付:2014/9/11	ジャガイモシストセンチュウ <無処理比(シスト寄生度、上イモ重)>	長崎馬鈴薯	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2014/9/11(植付前) <処理77日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2015	ばれいしょ (男爵) 植付:5/14	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生程度、卵幼虫密度増加率>	北農研	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/14(植付前) <7/28,9/10>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2015	ばれいしょ (男爵) 植付:5/28	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生程度、卵幼虫密度増加率>	北農研	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/28(植付前) <8/4,9/10>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2015	ばれいしょ (こなふぶき) 植付:5/14	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生数、卵密度増加率>	日くん協 (北海道)	露 地	少→多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/14(植付前) <処理78,141日後>	対照C剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2016	ばれいしょ (ニシユタカ) 植付:2015/9/11	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生、対無処理比(E)>	長崎馬鈴薯	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2015/9/10(植付前) <処理88日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	B	B	—
2016	ばれいしょ (ニシユタカ) 植付:2015/9/9	ジャガイモシストセンチュウ <シスト寄生、対無処理比(E)>	長崎馬鈴薯	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2015/9/8(植付前) <処理81日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—

■さといも ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2016	さといも (セレベス) 植付:4/25	センチュウ類 (ミナミネグサレセンチュウ) <根部密度指数(L、A)>	日植防高知	露 地	少 (接種)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/25(植付前) <処理140日後>	対照A剤 25kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—
2016	さといも (大吉) 植付:3/16	センチュウ類 (ミナミネグサレセンチュウ) <補正密度(L)、被害いも率>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	3/15(植付前) <処理202日後>	対照D剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2017	さといも (大吉) 植付:3/16	ネグサレセンチュウ (ミナミネグサレセンチュウ) <被害いも率>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	3/16(植付前) <処理193日後>	対照A剤 25kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—

■だいこん ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2014	だいこん (耐病総太I) 播種:9/5	ネグサレセンチュウ類 (キタネグサレセンチュウ) <根部被害度>	日植防茨城	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	9/5(は種前) <処理60日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2014	だいこん (駄夏37号) 播種:8/13	キタネグサレセンチュウ <補正密度(A)、根部被害度>	長野野花塩尻	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/5(は種前) <処理10,64日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	C	C	—
2014	だいこん (勇人) 播種:9/2	キタネグサレセンチュウ <被害度>	広島	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	9/1(は種前) <処理64日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	C	C	—
2015	だいこん (晩抽喜太一) 播種:5/22	キタネグサレセンチュウ <補正密度、被害程度>	北農研セ	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/22(は種前) <8/11,14>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	C	B	B	—
2015	だいこん (夏つかさ旬) 播種:7/22	キタネグサレセンチュウ <無処理比(被害度)>	青森野	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	7/22(は種前) <処理70日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2015	だいこん (勇人) 播種:8/27	キタネグサレセンチュウ <被害度>	広島	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/27(は種前) <処理70日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	C	C	—
2015	だいこん (冬みね) 播種:2014/10/2	キタネグサレセンチュウ <根部被害度>	神奈川三浦	露 地	少～多 (ばらつき あり)	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2014/10/2(は種前) <処理160日後>	対照D剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	D	D	—

■だいこん ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2015	だいこん (耐病総太I) 播種:9/4	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	日植防高知	露 地	中→少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	9/4(は種前) <処理62日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	D	C	C	—
2015	だいこん (夏天下) 播種:8/27	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <補正密度(L)、根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/27(は種前) <処理39,40日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—
2016	だいこん (おしん) 播種:4/13	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	東京	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/13(は種前) <処理58日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	C	B	B	—
2016	だいこん (夏天下) 播種:8/23	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/23(は種前) <処理49日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—

■にんじん ネコブセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2015	にんじん (彩誉) 播種:8/11	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	鳥取園弓浜	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/11(は種前) <処理36日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2015	にんじん (黒田五寸) 播種:8/22	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	大分植	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/22(は種前) <処理95,96日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—
2015	にんじん (向陽二号) 播種:8/27	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <無処理比(根こぶ指数)>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/27(は種前) <処理47,49日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2016	にんじん (ベーター312) 播種:4/13	センチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ) <根こぶ指数>	東京	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/13(は種前) <処理104日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2016	にんじん (ベーター312) 播種:8/2	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	鳥取園弓浜	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/2(は種前) <処理62日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2016	にんじん (向陽二号) 播種:8/23	サツマイモネコブセンチュウ <根こぶ指数>	鹿児島大隅	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	8/23(は種前) <処理52日後>	対照A剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	A	A	—

■にんじん ネグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2015	にんじん (向陽二号) 播種:6/3	キタネグサレセンチュウ <線虫密度増加率、被害程度>	北農研セ	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	6/3(は種前) <10/6,10/7>	対照C剤 20kg/10a 全面土壌混和	A	A	A	—
2015	にんじん (向陽二号) 播種:5/25	キタネグサレセンチュウ <無処理比(被害度)>	青森野	露 地	甚	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/25(は種前) <処理112日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	D	D	—
2017	にんじん (向陽二号) 播種:4/21	キタネグサレセンチュウ <被害程度指数>	北海道十勝	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	4/21(は種前) <処理109日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	C	B	B	—
2017	にんじん (向陽二号) 播種:5/31	キタネグサレセンチュウ <被害程度指数>	北海道十勝	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	5/30(は種前) <処理107日後>	対照B剤 20kg/10a 全面土壌混和	B	C	C	—

■にんにく イモグサレセンチュウ

検討 年度	作 物 名 (品 種) 栽 培 条 件	病 害 虫 名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃 場	発生 状況	濃度・量	処 理 法	回数	処理年月日(時期) <判定した調査時期>	対照薬剤名 (処理条件)	対対照	対無処理	判定	薬害
2015	にんにく (福地ホワイト) 植付:2013/10/24	イモグサレセンチュウ <被害鱗球率>	青森野	露 地	少	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2013/10/15(植付前) <処理317～318日後>	対照D剤 30kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2015	にんにく (福地ホワイト) 植付:2014/10/22	イモグサレセンチュウ <被害鱗球率>	青森野	露 地	中	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2014/10/8(植付前) <処理321～359日後>	対照D剤 30kg/10a 全面土壌混和	A	B	B	—
2016	にんにく (福地ホワイト) 植付:2015/10/1	イモグサレセンチュウ <被害度の対無処理比>	青森	露 地	多	20kg/10a	全面土壌 混和	1	2015/9/30(植付前) <強制乾燥後>	対照D剤 30kg/10a 全面土壌混和	B	D	D	—